

平成16年度名城大学電気会会計報告

収 入 の 部 (単位：円)		
項 目	予 算	決 算
前 年 度 繰 越 金	6,835,733	6,835,733
新 入 会 員 会 費	700,000	740,000
会 報 広 告 費	35,000	20,000
雑 収 入	550,000	470,342
合 計	8,120,733	8,066,075

支 出 の 部 (単位：円)		
項 目	予 算	決 算
会 議 費	300,000	132,040
学 生 会 員 援 助 費	100,000	0
新 入 会 員 援 助 費	350,000	245,535
名 簿 充 実 費	100,000	0
会 報 印 刷 費	500,000	367,500
慶 弔 費	150,000	78,350
通 信 費	700,000	600,739
交 通 費	60,000	0
行 事 費	250,000	44,674
人 件 費	20,000	18,000
事 務 費	10,000	0
予 備 費	5,580,733	0
小 計	8,120,733	1,486,838
次 年 度 繰 越 金		6,579,237
合 計		8,066,075

会 計 監 査 報 告 書

諸帳簿の記載、現金、預金等の額に誤りの無いことを確認した。

会計の運用は全面的に良好であることを認める。

以上の結果、本会の財産管理は適正であることを認める。

平成17年 7 月18日

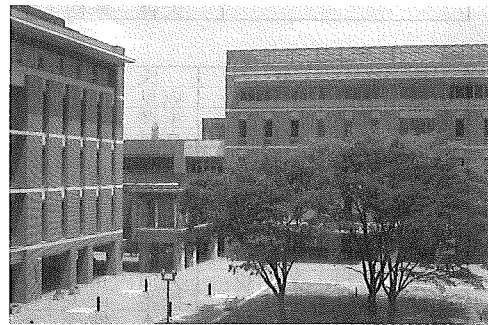
会計監査人 田 中 祥 弘 ㊞
水 野 光 雄 ㊞

アルミのことならエニシング
何でも出来ますお好みに

NIKA

株式会社 中部理化

本社工場 愛知郡東郷町大字諸輪字北山八〇番の九
電話代表(05613)**9-0555**
F A X (05613)**8-3188**



名城大学電気会第39回通常総会開催場所
名城大学 共通講義棟 北 N305講義室

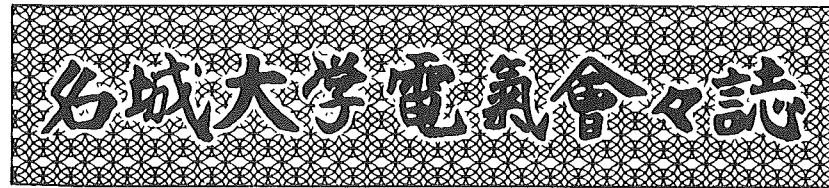
情報表示システムで、快適な社会環境をバックアップ



名古屋電機工業株式会社

本社 〒454-0021 名古屋市中川区横堀町 1-36 TEL 052-361-1211(代)

URL: <http://www.nagoya-denki.co.jp/> E-Mail: info@nagoya-denki.co.jp

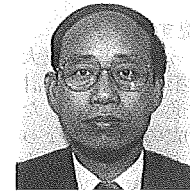


(題字・野口孝重先生)

発行所 名城大学電気会

名古屋市中白区塩釜一丁目501番地
電話(052)832-1151
名城大学理工学部電気電子工学科内

編集責任者 岩 室 隆
印刷所 西濃印刷株式会社



名城大学電気会第39回通常総会のご案内

名城大学電気会会長 岩 室 隆
(I部45年卒)

電気会会員の皆様には各方面でご活躍の事とお慶び申し上げます。

会員諸氏には日頃電気会に色々のご配慮、ご援助いただき厚く御礼を申し上げます。

会長就任から早や2年目に入り、少し皆様にお役に立つことができるようになったかなと考えております。

昨年40周年という節目を無事通過して、周年行事であります同窓会総会、新年懇親会を開催して多くの皆様と、お話が出来たことは私の長い人生の中で大変思い出深いものになりました。皆様の応援に感謝申し上げます。

今年愛知県は、愛知万博(地球博)も開催され会場は日本全国、海外から毎日多くの来場者で賑わっております。今年の同窓会は9月25日に開催されますが、この日まで愛知万博が開催されておりますので、名古屋近傍にお見えになった折リ大学、万博を合わせてご覧いただきますようご案内申し上げます。

電気会におけるこの1年間の活動についてご報告を致します。

1. 就職を控えた学生諸君に対しての就職説明会講師派遣 '04年12月
2. 企業セミナーの会社紹介と実施 '05年 5 月
3. 研究室対抗ソフトボール大会の支援と表彰式挨拶
4. 新春懇談会 '05年 1 月
5. 電気電子工学科卒業式 電気会入会の案内 '05年 3 月
6. 電気会会誌発行
7. 理工同窓会、電気会定期総会開催 '04年 9 月
8. 役員会、評議委員会開催 約 1 回/月
9. 卒業研究発表の聴講と発表優秀者表彰
10. JABEE 諮問への参画

名城大学電気会第39回通常総会開催要領

日 時 平成17年 9 月25日(日)
AM 10:00~11:00
受付でご芳名を記帳願います。

場 所 名城大学 共通講義棟 北 N305講義室

- 議 題:
1. 平成16年度経過報告
 2. 平成16年度会計報告、監査報告
 3. 平成17年度事業計画および予算案
 4. その他

11. その他

以上のような活動で電気会役員、評議員の皆様にはボランティアに近い活動をしていただいております。現在電気会会報印刷、郵送と多くの費用を要しております。この費用は毎年新入会員の方々の会費を基に運営しております。電気会会員は終身会員制を取っておりますことから、それ以外の収入はありません。今までの預金を出来る限り使わずに運営して、将来長く電気会を運営していくための提案を、皆様にご相談をしたいと思います。

本年度電気会総会でご提案申し上げ、皆様のご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくご審議をお願いします。

さらに昨年度から皆様をお願いしております在学生の就職活動は企業セミナーを毎年実施しております。その活動を通してある程度の就職内定の成果が出てきております。景気も本格的に上昇方向にあり、さらに全員希望の就職先が決まりますように、会員諸氏には就職の受入会社のご紹介等ご尽力いただきますようお願い申し上げます。会員諸氏で勤務先、ご関係の企業で今後採用に關しての情報がありましたら電気会まで連絡をお願いします。

さて例年の第39回電気会総会を下記要領で開催致します。多くの方々の出席をお願いします。同時に開催されます理工同窓会総会にも出席いただき会員皆様との親交をさらに深めていただければと心より思っております。

最後に本年3月をもってご退職されました内藤先生、寺澤先生には電気会の発展に多大に寄与いただきました。先生にはこの紙面にて厚く御礼申し上げます。

会員皆様には今後とも電気会の発展のために、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成17年度事業計画(案)

本会会則の目的にそって、次の事業計画を実施致します。

1. 名城大学電気会会誌40号の発行
2. 新入会員および学生会員への支援
3. 就職説明会講師派遣、就職セミナーへの援助
4. JABEEへの電気会参画
5. 一般行事
 - ・第12回電気会新春懇談会の開催
 - ・研究室対抗ソフトボール大会の支援とOBチーム参加
6. その他
 - 理工同窓会総会は引き続き 共通講義棟 北 N301講義室にて11:00~12:00開催。12:00~14:00までタワー75 15階レセプションホール理工同窓会の懇親会が行われます。



電気電子工学科長あいさつ

電気電子工学科長 河村 英 昭

名城大学電気会会員の皆様におかれましては国内外において御活躍の由、心よりお慶び申し上げます。また、日ごろは電気電子工学科の発展のためにご尽力を賜り、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

学科長という大役を仰せつかって二期目（一期2年）の1年半を早くも過ぎようとしております。今年度はいつにも増して落ち着いたスタートとなりました。昨年10月に「日本技術者教育認定機構(JABEE)」の本審査を受け、その結果発表の日がにわかになつてきているためと思います。この原稿の締め切りも近づくにつれ、気の重い日が続いています。

「JABEE」、認定される！

今日、我が名城大学理工学部「電気電子工学科」の教育プログラムである「技術創造プログラム(JABEE コース)」が、外部機関である「日本技術者教育認定機構(JABEE)」から2年間という短い期間ではありますが、「認定」されたことを、ここに会員の皆様方に吉報としてお知らせすることができたことを、大変嬉しく思っております。今年3月に卒業した学生のうち、39名の「技術創造プログラム」の学生を、晴れて「JABEE 修了生」として社会へ送り出すことができました。しかし、喜んでばかりはおれません。早速、「PDCA(Plan, Do, Check, Action)」に取り掛からねばならず、更なる「教育プログラム」のスパイラルアップに向けた改善をすることとなります。これからが正念場であると思っております。これらの取り組みは、大学内で行う教育現場のみで解決、処理できるものではありません。卒業生の社会での活躍状況、多くの電気会会員の皆様方からの学校教育に対する建設的な意見などを取り入れ、より良い教育環境を作る必要があります。これを機会に、今後とも今まで以上のご協力、お力添え、更なるご支援を賜りたく存じます。ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

昨年、当学科と一緒に「JABEE 審査」を受審した「機械システム工学科、交通科学科」も、めでたく「認定」を受けることができ、理工学部の今後の発展を牽引する一つの新しいスタートを切ることができたと思っております。

学部の近況

この4月より、下山宏（電気電子工学科教授）学部長による二期目がスタートしました。大学全入時代が目前に迫っている中、学部・大学院の教育・研究の充実を図るべく、新たな取り組みがスタートしました。三学科が「JABEE 認定」を得たことは、学部教育の充実に向けた起爆剤になるものと確信しております。

「天白キャンパス」、大きく変貌する！

皐月のピンク色の花が満開となっている名城大学天白キャンパス内では、再開発第一期第二次計画として、旧1号館跡地に建設を進めていました「共通講義棟北」も今年7月に完成の運びとなっております。是非是非、大学の教育研究の場が大きく様変わりしようとしている様子、更には天白キャンパス内施設の様変わりの様子をご自身の目でお確かめ願いたいと思います、東枇杷島時代の校舎内を歩くと床がギシギシと音を立て、今にも床を踏み抜きそうな校舎の中で勉強に励んだ時代を過ごされた諸先輩の方々、昭和40年代を天白キャンパスで過ごされた、当時大きな空き地でキャッチボールなどに興じた諸先輩の方々、巢立った場所は違うかもしれませんが、名城大学理工学部の電気工学科、あるいは電気電子工学科の卒業生として、先輩として築いてきた歴史の上に現在の「電気電子工学科」があるはずです。是非に大学の変貌振りを確かめに、一度天白キャンパスを訪れてみてはいかがでしょうか。その折には電気電子工学科の研究室へもお気軽にお立ち寄りいただき、卒研生に対する激励などをいただければ幸いです。電気会会員の皆様方が育んだ大学時代の思い出話などをもお聞きたいものです。お待ち申し上げております。

「系入試」、実質的な始動開始！

理工学部では、「系入試」を導入して二年目を迎えました。「数学科」は従来通り1学科で学生の募集を行っております。「情報工学科・電気電子工学科・材料機能工学科・機械システム工学科・交通科学科」のグループを二系として、「情報工学科・交通科学科・建設システム工学科・環境創造学科・建築学科」のグループを三系として、学生を募集して、二回目が過ぎました。この結果、入学時の学生の質も向上し、18歳人口の減少期にもかかわらず競争倍率もなんとか維持をしている状況です。従って、学科への学生の配属は2年生からということになります。今年4月には、「系入試」により入学した初めての学生が、「新2年生」として学科に配属され、新たなスタートを切ったところです。初めての方法による学生の学科配属に期待と不安を抱えながら、「JABEE 認定」を後ろ盾に動き出した新学期となっております。

学科の近況

平成17年3月31日付けで内藤克彦教授が定年退職されました。電気電子工学科の学科長などを歴任し、学科・大学院の教育研究に尽力され、学科を牽引していただいたことに対し、電気会会員の皆様方と共に御礼申し上げます。平成17年4月1日には、助教授の山中三四郎先生が教授に昇任されました。今まで以上のご活躍に期待

平成16年度卒業式 電気会よりお祝い

日 時：平成17年3月24日（木）
13時30分

場 所：名城大学 共通講義棟 N302講義室

今年も電気電子工学科の卒業式が盛大に行われました。最初に河村英昭学科長のお祝いの言葉と社会に出る皆さんへの心構えについて、お話をいただきました。

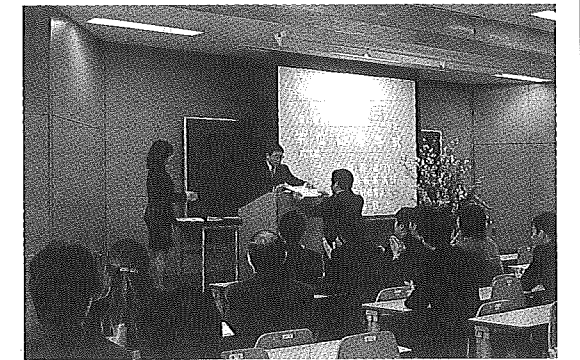
その席で今年2月の卒業研究発表で優秀な成績を取られた皆様に、表彰状と電気会からお祝いをお渡ししました。学科長の挨拶の後で、電気会代表として岩室電気会会長が、お祝いの挨拶と新会員の皆様に電気会への支援を要請致しました。

また電気会よりお祝いとして、ワールドクロック1点を皆様にプレゼントさせていただきました。

今年卒業された皆様は151名でその内大学院進学は14名です。

大学院修了の皆様はすでに学士卒業時、電気会会員になっていただいておりますので、その方々を除く今年卒業された皆様は、電気会新会員となります。

これからは自分自身で決めたそれぞれの人生を明るく、元気に、たくましく切り開いていただきたいと思います。ご卒業おめでとうございます。



名城大学電気会役員（平成16・17年度）

*印改選

役 員	氏 名	卒 年	役 員	氏 名	卒 年
名誉会長	河村 英昭	学Ⅰ40	幹事	葛西 栄吉	学Ⅰ40
会長	岩室 隆	学Ⅰ45		宇佐見 英三	学Ⅱ45
副会長	諸戸 勤	学Ⅰ45		坂田 鈴夫	学Ⅰ46
副会長	河邑 秀康	学Ⅰ46		忠田 明信	学Ⅰ48
副会長	*開米 和明	学Ⅰ47		馬場 政廣	学Ⅰ49
副会長	松野 一彦	学Ⅰ51		*伊藤 栄	学Ⅰ50
副会長	*榎原 理浩	学Ⅰ55		佐藤 一彦	学Ⅰ52
学内幹事	*大江 俊美	学Ⅰ42		岡村 浩一	学Ⅰ55
相談役	井原 丈夫	学Ⅰ35		*渡辺 典保	学Ⅰ56
	柘植 佑好	学Ⅱ43		*伊藤 公一	学Ⅰ60
	神田 善郎	学Ⅱ45		伊串 和晃	学ⅠH1
会計監査	水野 光雄	専Ⅱ30		魚津 欣也	学ⅠH2
	*田中 祥弘	学Ⅰ38		水谷 浩二	学ⅠH2
幹事	藤田 実	専Ⅰ25		二之部 昭司	学ⅠH2
	*坪井 照雄	学Ⅱ30		*伊藤 裕幸	修Ⅰ5
	深谷 利勝	学Ⅱ33		野口 健二	修Ⅰ9
	城 紀義	学Ⅱ33		金沢 宮孝	学ⅠH10
	大森 繁樹	学Ⅰ35			

平成16・17年度電気会評議員

氏 名	卒 年	氏 名	卒 年	氏 名	卒 年	氏 名	卒 年
中尾 久徳	学Ⅱ29	坂見 宏	学Ⅱ35	神谷 富夫	学Ⅰ47	沢田 昭人	学Ⅰ60
久野 重雄	専Ⅰ24	米澤 彰賢	学Ⅰ37	馬庭 正光	学Ⅱ48	森川 英二	学Ⅱ60
橋本 善造	専Ⅱ26	高村 義正	学Ⅱ37	加藤 昇	学Ⅰ49	青山 泰昌	学Ⅰ62
城所 進	専Ⅱ28	中野 修	学Ⅰ38	後藤 裕至	学Ⅰ50	中村 幸広	学Ⅰ63
永治 次男	学Ⅱ29	伊藤 徳一	学Ⅱ38	馬場 真吾	学Ⅱ51	川端 秀昭	学Ⅱ63
寺沢 邦彦	学Ⅰ30	柘植 俊明	学Ⅰ39	潤二	学Ⅰ52	落合 稔	学ⅠH1
森 順一	学Ⅱ30	山里 尚明	学Ⅰ40	堀田 幸雄	学Ⅱ52	川村 裕一	学ⅠH2
賀治 義次	学Ⅰ31	河村 英昭	学Ⅰ40	外山 泰裕	学Ⅰ53	二之部 昭司	学ⅠH2
小篠 聡	学Ⅰ32	池田 晋	学Ⅰ41	山際 勝治	学Ⅰ55	矢部 陽一	学ⅠH3
織田 繁雄	学Ⅰ32	大河内 正人	学Ⅱ41	田中 恵	学Ⅱ55	浅井 寛	学ⅠH4
中野 重雄	学Ⅱ32	松本 武夫	学Ⅱ42	加藤 誠治	学Ⅱ56	高尾 基晴	学ⅠH5
福島 政和	学Ⅰ33	鈴木 伸逸	学Ⅱ43	伊藤 紀行	学Ⅰ57	長谷川 祐一	学ⅡH5
戸谷 孝一	学Ⅰ34	梶原 恵一	学Ⅰ45	遠藤 嘉信	学Ⅱ58	村田 英一	学ⅡH6/博Ⅱ12
米良 稔	学Ⅰ35	村田 五六	学Ⅱ45	市川 広樹	学Ⅰ59	福島 元彦	学ⅠH13
勝海 泰弘	学Ⅰ35	山崎 初夫	学Ⅰ46	水谷 正人	学Ⅱ59		

人とエネルギーの
間に私たちの
技術があります。

TOENEC

— 21世紀をリードする総合設備企業 —

株式会社 トーエネック

本 店／ 名古屋市中区栄1-20-31
☎460-0008 ☎(052)221-1111
東京本部／ 東京都豊島区巣鴨1-3-11
☎170-0002 ☎(03)5395-7111
大阪本部／ 大阪市淀川区新北野3-8-2
☎532-0025 ☎(06)305-2181
支 店／ 名古屋・岡崎・静岡・三重
・岐阜・長野・飯田

平成16年度経過報告

- (1) 第38回 電気会総会、理工同窓会総会
日 時：平成16年 9 月26日 10時～12時
電気会総会 12号館 302号室
理工同窓会総会 11号館 第1会議室
議 事：平成15年度経過報告
平成16年度事業計画および予算案
役員・評議員変更の承認
その他
- (2) JABEE 懇談会
日 時：平成16年 4 月 3 日(土)
場 所：電気電子工学科 事務所 17時より
日 時：平成16年 4 月 3 日(土) 17時より
出席者：井原、岩室、河邑、松野
- (3) 就職説明会
日 時：平成16年12月 4 日(土) 10時～12時
講 師：アイシン・エイ・ダブリュ(株) 富永圭一様
名古屋電機工業(株) 野口健二様
(株)トーエネック 伊藤公一様
- (4) 電気会 新春懇談会
日 時：平成17年 1 月22日(土) 17時～19時
名城大学 タワー75
レセプションホール その他
- (5) 役員会 平成17年分
日 時：平成17年 1 月15日(土) 18時
- (6) 退職教員送別会
日 時：平成17年 3 月10日(木) 17時
場 所：タワー75 レセプションホール
内藤先生、寺澤先生 お祝いお渡し
- (7) 卒業式 お祝い挨拶
日 時：平成17年 3 月24日(木) 13時30分
場 所：共通講義棟 N302講義室
- (8) 企業セミナー
日 時：平成17年 5 月22日(土) 13時30分～16時
場 所：タワー75 2F 学生ホール
- (9) 第39回 電気会総会、理工同窓会総会
日 時：平成17年 9 月25日(日) 10時～12時
場 所：電気会総会 共通講義棟
北 N305講義室 10時～11時
理工同窓会総会 共通講義棟
北 N301講義室 11時～12時
理工同窓会懇親会 タワー75
レセプションホール 12時～14時

祝 赤崎 勇教授 文化功労者顕彰記念祝賀会

日 時：平成16年12月19日 (日)
17時30分
場 所：名古屋マリオットアソシアホテル
16階 (Towers ポール ルーム)
赤崎先生は今まで誰もが不可能と言われた青色発光ダイオード、同レーザの研究開発に、1973年から挑戦され実現されました。身近な例では交通信号機の青色は今までは電球を使用した見難いものでしたが、この発光ダイオードを使用して見やすく、明るいものになってきております。
当日の記念祝賀会にはトヨタ自動車(株) 豊田章一郎会長、日本学術振興会 小野理事長、豊田合成(株) 堀籠会長、名古屋大学 平野総長、官界および産業界から多くの著名な方々をお招きして盛大に挙行されました。
教授の特別講演では開発の経緯と開発時の苦労話を、詳細に皆様へお話しいただき、新技術に対して妥協を許さず、現在の製品に結びつけられた研究開発に出席いただいた皆様へ感動を与えていただきました。
長い間お伴された奥様を含めて会場全員の祝福を受けてのすばらしい記念祝賀会になりました。

内藤先生、寺澤先生ご退職

長年電気電子工学科でご教授をいただきました内藤先生、寺澤先生が本年 3 月31日をもってご退職されることになりました。
3 月10日(木)18時より理工退職者送別会に多くの大学関係者や同窓会神田会長、岩室電気会会長、各科同窓会会長が出席して各先生の業績にお礼申し上げます。
内藤先生にはご都合でご出席いただけませんでしたが寺澤先生には枇杷島の新富校舎から現、天白キャンパスまで

赤崎教授 経歴
1952年 京都大学卒業
1952～1959年 神戸工業(株)
1959～1964年 名古屋大学助手、講師、助教授
1964～1981年 松下電器産業(株) 室長、部長
1981～1992年 名古屋大学教授
1987～1990年 新技術事業団 GaN 系青色発光ダイオード研究開発責任者
1987～1994年 文部省学術審議会専門委員
1992～現在 名城大学教授、名古屋大学名誉教授
1993～2001年 科学技術振興事業団 GaN 系短波長半導体レーザ研究開発責任者
2004～現在 名古屋大学特別教授
名古屋大学赤崎記念研究センター、科学技術振興機構参与、経済産業省高周波プロジェクト「ワイヤレスデバイス研究開発戦略委員会」委員長、名城大学窒化物半導体研究センター代表研究者

長年の教職活動を通して多くの学生諸君、OBの皆様にご教授いただき、大学での思い出を熱くご報告いただきました。
両先生にはこれからの長い人生を大いに楽しんでいただきたいと存じます。
ご健勝、ご多幸をお祈りします。長い間ありがとうございました。

したいと思います。以上の学科人事を経て、電気電子工学科では、スタッフ18名の定常状態をむかえました。「JABEE 認定」のお墨付きをいただいたことにより、教育に対する「改善」、更なる「スパイラルアップ」に向けた取り組みを、気を引き締めてスタートする年となりました。
「JABEE」認定を機会に、学部教育では基礎科目の勉強・修得を基本姿勢と位置付け、これに加えて学生実験、卒業研究を通して「パワーポイント」を利用したプレゼンテーション能力などをも培えるようにし、積極性のある「チャレンジ精神」旺盛な学生を育てることを再確認した次第です。特に、「卒業研究」の成果は、年度末 (2 月中旬) に電気電子工学科全体で「卒業研究発表会」を実施しており、プレゼンテーションすることを義務付けております。今年度から新に、「卒業研究発表会」において「優秀論文発表賞」を設け、全教員の審査によりその論文を選出し、一年間の卒業研究に対する奨励を行うと同時に、「卒業式」当日に表彰を行っております。三日間にわたる「卒業研究発表会」というハードな日程にもかかわらず、学科一丸となって発表会の充実に取り組んでおります。電気会会員の皆様方も是非、「卒業研究発表会」にご参加をいただき、社会へ巣立っていく学生を叱咤激励していただければ幸いに存じます。時期がきますれば「学科ホームページ」に告示すると同時に、学科の方へお問い合わせいただければご案内できることになっております。是非、今年度の「発表会」には多数の電気会会員のご出席をいただき、「卒業研究発表会」のスパイラルアップにつなげていきたいものです。ご参加をお待ち申し上げます。因みに平成16年度は、下記の6名の学生が受賞しております。

- ・近藤俊介：「生物発光の発光原理に関する研究」(指導教員：清水教之教授)
- ・住ノ江真悟：「共焦点レーザ走査型顕微鏡を用いた植物細胞小器官移動の測定」(指導教員：多和田昌弘教授)
- ・山内嘉晃：「ハイブリット形昇圧整流器に関する研究」(指導教員：林和彦助教授)
- ・柴田明裕：「マイクロ波プラズマCVDにおける金属触媒 Co の粒径変化によるカーボンナノチューブの合成」(指導教員：平松美根男助教授)
- ・山田良太：「遠隔訪問ロボットの自律移動のための障害物回避」(指導教員：辰野恭市教授)
- ・山田悟司：「ビル遮蔽障害エリアでのデジタル放送波の電界強度測定」(指導教員：都竹愛一郎教授)

大学院生の活躍に見る！

学部では「基礎教育」に重点を置き、大学院では、より専門的な知識を身に付け、より深く一つのテーマについて研究を行うことを目標としております。研究活動を通して創造性・協調性・指導力などを培うことは勿論、学会活動でのプレゼンテーション等を通して学外の研究者・技術者と議論をすることにより、物怖じしない積極的で「チャレンジ精神」旺盛な研究者・技術者の卵を育てるべく指導をおこなっております。大学院生の研究

に対する取り組み姿勢は、学部生、特に卒研究生の勉学意欲を掻き立て、刺激となっているように思われます。大学院生の学会活動を通しての活躍は、当の本人はもとより、我々指導する立場の教員にとっても大きな励みとなっております。
修士課程 (博士前期課程) の学生は、二年間の研究成果の締めくくりとして、毎年年度末 (2 月初旬) に「修士論文公聴会」が行われております。「卒業研究発表会」同様、電気会会員の皆様のご参加をお待ちいたしております。今年度から、学部と同様に「優秀論文発表賞」の論文を選出し、「修了式」当日表彰を行っております。因みに平成16年度は、下記の2名の学生が受賞しております。

- ・岡田成仁：「PV モジュールに恒常的に含まれる損失要因を考慮した発電性能診断法に関する研究」(指導教員：河村英昭教授)
- ・谷田厚志：「高電界劣化がポリエチレンの電界発光特性に与える影響」(指導教員：清水教之教授)

院生の活躍の状況は、学外での学会活動に見ることができます。即ち、研究発表論文に対する学会から贈られる賞の受賞状況に見ることができ、以下に平成16年度の各学会における研究発表に対して、受賞した大学院生とその論文題目等を紹介いたします。受賞した学生にとっては今後の社会活動での一つの礎となるものと思っております。今後の益々の活躍に期待したいものです。

- ・加藤貴裕 (指導教員 下山宏教授、多和田昌弘教授)：「平成16年度 電気関係学会東海支部連合大会 電気学会B賞 (論文題目：アゾポリマーフィルム表面に形成した表面レリーフ構造上への二次元コロイド結晶の作成および固定化)」受賞
- ・木村友彦 (指導教員 下山宏教授)：「平成16年度 電気関係学会東海支部連合大会 IEEE 名古屋支部学生奨励賞 (論文題目：Field Emitter Array の LEEM 像と同時観察および Mirror 像観察)」受賞
- ・鈴木智 (指導教員 河村英昭教授、山中三四郎教授 (当時、助教授))：「平成16年度 第22回電気設備学会全国大会発表奨励賞 (論文題目：大規模 PV システムの性能評価)」受賞

以上のように学外における学会活動において後輩諸君が活躍をしております。学会等で後輩諸君に会った折には、激励の言葉等を一言お掛けいただければ幸いに思います。

理工学部では来年の「理工学部80周年記念」に向けた取り組みの準備が始まっております。理工学部の80周年はとりもなおさず「電気電子工学科」の80周年でもあります。節目の年を電気会会員の皆様と共に祝いできることを楽しみに稿を閉じることと致します。
最後に名城大学電気会会員の皆様方の今後の益々のご活躍を祈念申し上げます。

電気電子工学科の学習・教育目標

昨年の会報に掲載した教育目標を下記のようにスパイラルアップしました。

(A) 豊かな教養、健全な常識 豊かな教養と健全な常識を持った、社会の一員としての技術者になる。

人文科学・社会科学の学習を通じて、人間とは何か、自分とは何かを考え、社会との関わりを考えると共に、いろいろな社会の構造と問題点などを学ぶ。この学習を通して総合的な教養や常識を身に付け、思慮分別を持った技術者になる。また、語学の学習を通じて日本のみならず世界各国の文化・思想を理解し、他国の人と共感できる感性を身に付ける。

到達水準：・宗教・哲学、いろいろな社会の構造、文化、心理などを学び、人間とは何か・自分とは何かを考え、日本の社会・世界との関わりを考えることができるようになる。また、他者・他国の立場も理解できるようになる。

(B) 倫理観、使命感 自然と人類の共生を常に考え高い倫理観と使命感を持った技術者になる。

技術者倫理・環境倫理の学習を通じて、技術が地球環境や社会に及ぼす影響・効果を常に念頭に置き、技術者としてとるべき行動を判断できるようになる。また、時間・約束を守り、与えられた任務をやり遂げようとする責任感を持った技術者になる。

到達水準：・技術が社会や環境に与える影響を理解し、責任ある技術者として行動できる基本的思考方法を身に付ける。

(C) 自然科学・情報基礎 自然科学ならびにコンピュータ技術に関する基礎能力を身に付ける。

数学、物理、化学などの自然科学や情報科学の基礎の学習を通じて、自然科学、情報科学の基礎的能力を身に付ける。科学的、技術的事項を、言語・数式・図などで表現できるようになる。

到達水準：・科学的、技術的事項を日本語、図、グラフ、数式を用いて表現できるようになる。

・微分方程式・連立方程式が解け、複素数・行列の演算ができ、ベクトルで場を表現できるようになる。

・上記2項を支援する計算機の使用法を身に付ける。＊試験問題のレベルとしては、電気学会や電子情報通信学会の教科書シリーズの基本的・標準的な問題を想定している。

(D) 電気電子工学 電気・電子工学分野の専門知識とその应用能力を身に付ける。

電気電子工学の知識・理論を特に基礎に重点をおいて学習し、これらを実践の場で応用できるようになる。

電気電子技術者になるための基本的な専門知識を身に付ける。電気磁気学、電気回路、電子回路、物性、エネルギー変換の基本的理論を理解し、応用できるようになる。その他、電力応用、物性、計測・制御、通信分野の基礎理論と主な装置の動作、計算機プログラムについて、選択して学ぶ。

到達水準：・電気磁気学、電気回路、電子回路、物性の基礎理論を理解する。

・上で学んだ電気磁気学、電気回路、電子回路についての基礎知識を演習で応用できるようになる。

・情報理論を理解し、計算機プログラムが作成できるようになる。

・電力応用、物性、計測・制御、通信分野の基礎理論と主な装置の動作を理解する。＊試験問題のレベルとしては、電気学会や電子通信情報学会の教科書シリーズの基本的・標準的な問題を想定している。

ハイテクノロジー医療の分野に技術でチャレンジ

株式会社 中部メディカル

〒510-8015 四日市市松原町33番5号
TEL 0593 (65) 7248(代) FAX 0593 (64) 9294
代表取締役 落 合 靖 (専I 25年卒)

構内有線無線通信装置及びテレビ装置

大 藤 電 設 株 式 会 社 大藤エンジニアリング株式会社

〒464-0850 名古屋市千種区今池一丁目25番10号
TEL 052 (741) 3871(代) FAX 052 (733) 3361
代表取締役 藤 田 実 (専I 25年卒)

社に就職するかも大事ですが、就職してからどうするかの方が最も重要であり、これが「賭け」に勝つ秘訣なのです。

それではこれからの大学生活をいかに過ごせばよいのでしょうか。一番大事なことは、卒業研究につけるように単位をしっかりと習得することです。そして無事卒業研究につけたら、担当の先生の下でしっかり勉強をして下さい。教科書に書いてある内容だけではなく、卒業研究を通して「物事の本質を理解して未知の問題に対して解を求める」というプロセス（過程）を十分に学んでほしいと思います。会社に入ればわからないことばかりです。しかし、ある問題に対して解決法を考えるというプロセスは同じです。一生



平成16年度
就職説明会講演内容

伊藤 公一
(昭和60年卒)

昨年度から、当電気会の役員を仰せつかりました伊藤公一(昭和60年卒)と申します。皆様には日頃から電気会の活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

私は、現在、㈱トーエネックの技術開発室に勤務しており、主として電気設備のノイズ障害や接地に関する基礎研究および対策システムの開発などに従事しています。

電気会からの依頼により、平成16年度就職説明会において、名城大学理工学部電気電子工学科3年生の学生に対して当社の概要や経験談などを述べさせていただきました。以下にそのときの概要をご報告いたします。

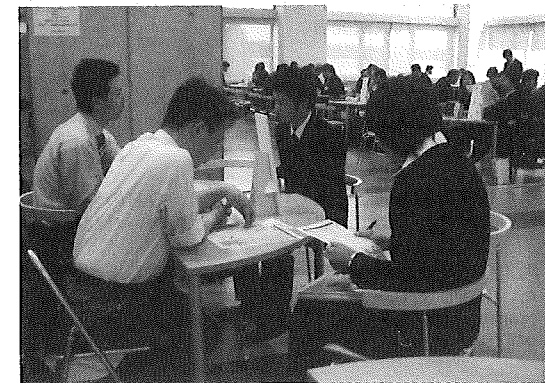
当日は100名を超える多くの学生が参加されました。学生は非常に熱心に聴講され、質問も活発でとても有意義な会であったと思います。

理工学部学内企業セミナー開催

日 時：平成17年5月21日(土) 13:00~16:00

場 所：理工学部企業セミナーがタワー75の2階ホール

今年の理工学部企業セミナーは、参加企業57社、延べ参加学生数234名で開催されました。(平成15年44社、261名、平成16年52社、376名)企業業績の回復基調からか、採用内定の学生が昨年より多く、今回は参加学生が減少しています。このことは学生にとっては好ましい現象かもしれませ



懸命努力すれば決して無駄にはなりません。また、プレゼンテーション(説明)する技術、尊敬語や謙譲語などの言葉遣い、マナーなど普段、大学の授業では教わらないことをしっかりと学んでおくと、就職してからとても役に立ちます。

次に大学院進学について述べます。私は、チャンスがあれば是非進学してほしいと思います。別に学歴をつけた方がよいと言っている訳ではありません。後三年間かけてしっかりと勉強すれば更に理解を深めることができます。機会があれば是非トライして下さい。

最後になりますが、大学生活も残すところ1年少々です。悔いが残らぬよう何事にも、一生懸命頑張ってください。

私の講演内容は、当社の概要と近況、会社の選び方、今後企業に求められる人材、就職を有利に進めるための準備、そして、入社後の心構えなど、私なりの考えを述べさせていただきました。

会社の選び方については、初任給や大企業だからという安易な理由でなく、まず、自分が何をしたいか、何になりたいか、ということをよく考えることが重要であると申しました。すなわち目的を明確に持ち、目的に合った会社を選択することが重要だと思っています。私は「生きがい」とは、達成感だと思っています。目的を達成する喜びが得られるような企業に就職していただきたいと願います。

入社後の心構えとしては、協調性や創造性などのいくつか重要な事項を挙げましたが、もっとも大切なのは、健康を第一に考えること、そして目的を達成するためにやる気や情熱を持つこと、と申しました。

最後に、今年、卒業された皆様は、大きな期待を持って就職されたと思います。これから約40年という長い時間をその会社で過ごすことになります。ぜひ、今の時点で自分の具体的な人生設計を行い、常に短期的な目標を定めて、長い階段を一步步づつ着実に歩んでいただきたいと考えております。



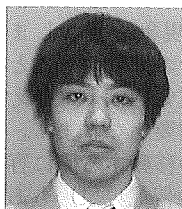
電気会会員講師による就職説明会開催

日 時：平成16年 12月4日(土) 10時より

場 所：名城大学 理工学部 階段教室

毎年恒例になりました電気会会員により、各界でご活躍の3名の講師に就職に関する、アドバイスをいただきました。

第一戦で活躍されている諸氏の現在の職場での状況を報告いただき、就職に関する心構えを皆さんの考えを交えて講演していただきました。学生諸君も自分の将来を決める



平成16年度
就職説明会講演内容

富永 圭一
(修平成13年修了)

私は平成13年に大学院を修了後、アイシン AW ㈱に就職致しました。アイシン AW は、オートマチックトランスミッション事業、EV(ハイブリットシステム・電気自動車)事業、ナビゲーションシステム事業を主とし、A/T専門メーカーとしては世界シェア第一位になります。私は、A/Tをコントロールする電子制御装置(ECU)を設計開発する電子技術部に所属し、特に、先進の技術でコンパクトに構成され、E/Gルーム内の搭載も可能となる小型高耐熱のECUを開発するECU開発グループに所属しています。携わっている業務は、回路設計、基板設計から、顧客との仕様のやりとりまで多岐に渡り、高い技術的知見はもちろん、プロジェクトを遂行していく為の幅広い能力が要求されます。

昨年の就職説明会では、実際に私が業務に携わる上で痛切に感じたコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の重要性について触れました。電気電子情報系、機械工学系、その他各分野での技術的知識が要求されることはもちろんですが、実際にいざ仕事となると、思いの外、多くの関係者と協業で仕事を進めることになり、相手に自分の意志を伝えること、相手の話をよく聞き意図を理解する



平成16年度
就職説明会講演内容

野口 健二
(修平成9年修了)

私は、平成9年3月に大学院を修了後、名古屋電機工業株式会社に就職しました。名古屋電機工業は、高速道路等に設置されている道路情報板を代表とする情報提供装置や、それを含めたシステムの設計、開発を主に行っている会社です。私は、そのシステム設計のソフトウェア開発を行っていました。

今回の講演では、1. 会社選びについて、2. これからの大学生活、3. 大学院進学 of 3 つについて述べさせていただきます。

重要事項でもあり真剣に聴講して質問も数々いただきました。3名の講師による就職説明会での講演内容を、次に記載させていただきますのでご覧下さい。

出席講師(敬称略)

アイシン・エイ・ダブリュ㈱ 富永圭一

名古屋電機工業㈱ 野口健二

㈱トーエネック 伊藤公一

ことが重要になってきます。特に、上司に対して業務の目的や背景と結論(自分の考え)を簡潔に伝える能力が必要不可欠です。業務の過程などを一生懸命に延々説明しても、相手には中々伝わらないものです。上司が知りたいと思うのは、目的と結論・見解(自分の考え)であり、それが伝わった上で、なぜその結論に至ったかのプロセスを問われ、結論を検証していきます。このようなコミュニケーション能力を伸ばす方法は、日頃より先生方や先輩方といった目上の方々と研究テーマ等について積極的に話をすることだと思います。加えて、上司や関係者を巻き込んで、積極的に業務を推進していくためには、複数の相手に対して自分の考えを納得させるプレゼンテーション能力も重要となってきます。プレゼンテーション能力を伸ばすには、学会の講演会などに積極的に参加して、発表者が何を伝えたいのかを全体を通して考え、分かり易いプレゼンテーションを多く聞くことだと思います。また、自分の考えを伝えたい相手が海外顧客となると、当然、語学力が必要になりますし、技術資料なども英語である場合が多いため、結果的に業務上外国人と直接には接点が無かったとしても、学生時代より積極的に外国語(基本的に英語)を身に付けるよう努力することを勧めます。

就職説明会では、久しぶり大学へ足を運び、自分の学生時代を思い出すことで、改めて社会人となった今の自分を見つめ直すよいきっかけとなりました。今後、ますます電気系技術者の需要が増えると思われ、電気会の活動により、技術的、人間的に優れる技術者が多数現れることを期待致します。

就職活動を行う会社を選定する基準は、実に多次元です。事業内容、会社規模、売上や経常利益、給料に勤務地などなど、とても多くの要素があります。それぞれの要素に自分なりの優先順位を付けて総合的に判断することになります。ここで注意しておきたいことは、「現在優良企業だからその会社に就職したい」という考えは、必ずしも正解ではないということです。今から20年前の1985年は、皆さんご存知の『マイクロソフト』の「ウィンドウズ」バージョン1が生まれた年であり、またその1年前には、パソコン分野で世界一となった『DELL』が誕生しました。現在は両社とも誰もが知る大企業に成長しています。つまり、現在優良企業或いは小さな企業が10年20年後にどうなっているかについて明確な回答を出すことは、誰も出来ません。言葉が少し乱暴ですが、「就職は1つの大きな賭け」だと私は考えています。しかし、その勝敗は、すべて天任せに決まるのではなく、その会社に就職していく皆様が入社後どのように活躍するかによって決まるのです。つまり、どの会

(E) 問題解決能力、協調性 技術的諸問題の現実的解決策を立案する企画力と遂行する実行力ならびに他と協力して計画を遂行するための協調性、指導力を身に付ける。

電気電子工学実験などを通じて測定実験や検証実験の方法を体験し、技術的な諸問題を明確にし、解決するための計画立案と遂行能力を身に付ける。併せて、他と協力して計画を遂行するための協調性、指導力を身に付ける。

到達水準：・電圧・電流などの電気諸量や材料の電気的特性を測定する方法、基本的な電子回路やデバイスの動作を演習・実験を通して理解する。

・実験報告書を書くことができるようになる。このことを通して、現実の技術的問題をモデルで表現したり、解決策を立案・検証できる基礎を身に付ける。

・チームを組んで実験を実施することにより協調性、指導力を養う。

(F) 向上心、自主性 好奇心と向上心に富み、自ら考えて行動する技術者になる。

演習・基礎的な実験・製作を通じて、電気電子工学に興味をもち、自分の頭で考え、自主的・継続的に学習できる能力を身に付ける。

到達水準：・簡単なラジオ・電子回路などの製作、簡単な電卓の設計などを通して電気電子工学に興味を持つ。

・基礎的な物理学実験、化学実験と電気磁気学、電気回路、電子回路の演習により、自分で考えることを身に付ける。

(G) 表現・発表能力、英語コミュニケーション能力 自己の主張を論理的に組み立て表現する発表能力と英語によるコミュニケーションの基礎的能力を身に付ける。

実験報告書の作成、学生実験のプレゼンテーションを通じて、日本語による論理的な表現能力を身に付ける。また、英語の学習や卒業研究での英語論文の輪講を通じて、英語で基礎的な読み・書き・発表・会話ができる能力を身に付ける。

到達水準：・日本語で、報告全体の構成がしっかりして分かり易い実験報告書を書き、発表できる。

・英語で、専門分野の論文を読んだり、日常会話をするための基礎力を身に付ける。

(H) 問題発掘能力、チャレンジ精神 新しい産業や分野をも創造しうる積極性とチャレンジ精神を養う。

発展の実験と卒業研究などでの研究開発を通じて、問題発掘、新しい装置や実験装置のデザイン・製作などのトレーニングを行い、本学の伝統であるベンチャー企業精神を受け継いだ技術者になる。

到達水準：・発展の実験(電気電子工学実験Ⅲ、卒業研究)で行う設計・製作を通して、問題発掘・デザインを経験する。

・卒業研究を積極的・自主的に取り組む。

この教育目標を掲げ、平成16年10月10日～13日の4日間にわたり日本技術者教育認定機構(JABEE)の本審査を受け、平成17年5月12日付2004年度の認定証を受領しました。今回の認定期間は2004年4月から2006年3月末日の2年間で、この期間内で指摘された改善箇所を改善し、2006年に中間審査を受け認められれば3年間の期間延長になります。卒業生の皆様にも何かとご尽力を頂くことが多々あると思いますので、紙面をもってご協力をお願いします。

なお、平成17年5月現在電気・電子・情報通信とその関連分野で認定されている教育機関は11大学 4 高等専門学校 計15で認定コースは17コースまたはプログラムという状況です。また、機械および機械関連分野に認定申請した機械システム工学科および交通科学科も2年間認定されました。またJABEEそのものがこの6月ワシントンアコード加盟することが認められました。

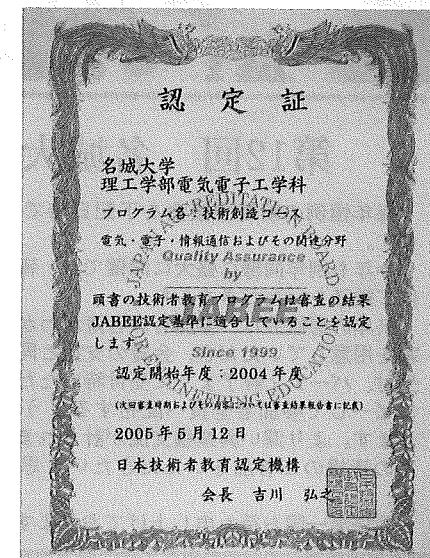
昨年度に引続きこれらの教育目標に対するJABEEアンケートにご協力をお願い申し上げます。学習教育目標(A)～(H)について、重要度「5」～「1」がわかるように記載して下さい。また、その他ご意見がございましたら記載して下さい。

はがき、FAX および JABEE 用メールアドレスでご回答をお願い致します。

FAX の宛先 名城大学 電気電子工学科 電気会 JABEE アンケート係
FAX：052-832-1298

JABEE 用メールアドレス：ejabee@ccmails.meijo-u.ac.jp

(記) 名城大学理工学部電気電子工学科 講師 米澤彰賢



第11回名城大学電気会新春懇談会開催

平成17年1月22日(土)に、毎年恒例行事となりました新春懇談会を、名城大学タワー75の15Fレセプションホールにて、多くの皆様出席のもと盛大に開催しました。

景気も上昇機運にあり、今年愛知県は愛知万博の世界的行事の年でもあり、元気に開催できましたことをこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

特別講演では名城大学の村本先生を、お迎えして極限環境下における電気絶縁の影響と、これらをいかに克服していくか、学術的に大変興味深いお話をいただきました。

短い時間の中での講演でしたので、先生にはまだお話ししたいことが多々ありだったと思います。本誌に村本先生のお話を掲載し、ご紹介させていただきます。

日頃各界でご活躍の諸氏にとっては、学部長、学科長、諸先生、OBの皆様を一同に介して現在の状況をお話いただき、時間もまたたく間に過ぎてしまい楽しくご歓談いただきました。

来年は1月21日(土)に開催が決定しております。卒業されて長らく大学にお見えになっていない皆様は、建物等が近代風に変り大変驚かれると思わ

れます。また、パーティ会場のタワー75高層棟15階レセプション会場からは名古屋市が一望に眺められ大変感動されると思われますので、この機会に是非とも同級、同窓の方をお誘いいただいて、歓談したいと存じます。電気会発展のためによりしくお願い申し上げます。

新春懇談会内容

日時	平成17年 1月22日(土)
ミニ講演会	17:00~17:30
村本先生	
講演題目	「極限環境下における電気絶縁」
司会	電気会会長 岩室
パーティ会場移動	17:35
パーティ	レセプション 展望ラウンジ
司会	大江先生
パーティ式次第	
1. 乾杯	17:40
2. 名城大学学歌斉唱	17:45
3. 懇談会	17:55
4. 名城大学 応援歌名城節斉唱	18:30
5. 電気会会長お礼	18:50
6. お開き	19:00



第12回 名城大学電気会新春懇談会のご案内

毎年恒例の新春懇談会を下記日時で開催を致します。

今年も例年同様に盛大に開催でき、皆様なごやかにご歓談をいただきました。

来年の懇談会は、参加者の名簿がわかるように名刺を用意していただき、会費の支払と同時に名刺も受付、パーティ終了までに受付時いただいた名刺をコピーして参加者全員へ配布するように考えております。より深い異業種交流が計られますので、多くの皆様のご参加をいただきたいと思います。

関係者一同お待ち申し上げます。

日 時	平成18年1月21日 (土)
	17時~19時
場 所	名城大学 タワー75高層棟 15階 レセプション会場
会 費	5000円 (受付にて拝受)
会場受付は、	16時より準備しております。
第1部	
ミニ講演会	17時~17時30分
講師	交渉中
第2部	
パーティ	17時30分~19時まで
進行は	別途式次第による



新春懇談会 ミニ講演会 「極限環境下における電気絶縁」

名城大学理工学部電気電子工学科講師 村本 裕二

題目を見ると特殊性を感じるかもしれませんが、電気絶縁の話です。電気は社会において水や空気のようになくてはならない存在です。さらに絶縁は、電気を安全に使用するために必要なものですが、絶縁が保たれていて当たり前になっています。もちろんその重要性は、何かトラブルになってから感じるが、普段は目立たないものです。

今年の電気会新春懇談会にて講演させて頂いた内容は、極低温および高温電気絶縁についてでした。これらの絶縁は、電気的なストレスのみならず、周囲の過酷な環境に対しても考慮しなければなりません。岐阜県土岐市にある核融合科学研究所の超伝導体を用いた大型ヘリカルコイルは、超伝導状態において運転するため液体ヘリウムに浸漬しています。液体ヘリウムの温度は約4.2Kであり、極めて低く、非常に過酷な環境です。極低温環境における電気絶縁への影響としては、非常に大きな温度差と過度の機械的(収縮)ストレスです。例えば、ゴムのようなものでは、この収縮によって脆くなり、弱い力で簡単に壊れます。たとえ電気的なストレスに耐えたとしても材料が脆くなれば絶縁としてのみならず導体などの支持材としては使うことは困難となります。現状では、ガラス繊維プラスチック(GFRP)などが使用されており、材料自体の問題はありません。問題は、極低温冷媒中における運転です。装置を造っていくことによって埃や金属粉ができます。もちろん清掃によって極力除去しますが、すべてを除去することは不可能です。液体冷媒にコイルなどを浸漬するとこの埃や金属粉などが混入し、装置の電気

絶縁にとって何か影響を及ぼす可能性があり、これらの挙動によっては、電気絶縁性能を低下させる可能性も生じます。さらに液体ヘリウムも温度をさらに低下させると超流動ヘリウムとなり、粘度などが極端に低下するという現象を起こします。そうするとさらに埃や金属粉の挙動が複雑となり、その挙動のメカニズムや電気絶縁への与える影響を解明することは非常に需要となります。さらに液体には、流動するとその移動する際に容器の内壁を帯電させる現象(流動帯電現象)もあり、さらに複雑さを増すこととなります。現在、これらの影響を調べると共に、大型ヘリカルコイルの運転に影響を与えないようにする対策を検討している段階です。ここでは大型ヘリカルコイルにおける電気絶縁を取り上げたが、極低温電気絶縁技術は、超伝導体を利用した電力輸送においても必要であり、その技術の重要性は日増しに高まっています。

高温電気絶縁材料としてポリイミド(この材料は耐熱性高分子材料であり、250℃において連続使用可能)に注目し、主に絶縁破壊機構の解明をするために研究を進めてきました。この材料は高価であるが、それに変わる材料が少ないため高温環境下においてはよく利用され、その使用用途は広がりつつある。電気絶縁の面からは、高温において絶縁破壊直前に前駆電流(急峻な電流増加)が流れることがわかっており、この要因が材料内部の電荷の挙動が影響しているのではないかと考え、電荷挙動を観測してきました。現状では、静電パルス応力法という技術を用いた装置にて観測しているが、その現象を解明するに十分なデータが観測されていない。今後、この点を解明し、絶縁破壊機構の解明がされれば、高温電気絶縁技術に大いに活かされるのではないかと考えております。

極限環境下というのは、特殊な環境下でもあり、その用途は超伝導体を用いた電力機器、宇宙船、航空機産業および原子力発電所などが挙げられる。近年の産業技術の発展に伴い、益々、その用途は広がりつつある。さらにこの環境下において電気エネルギーを使用する場合には、絶縁も当然、考慮しなければならず、その技術の重要性は増しているところです。

